

平成28年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT28217 プログラム名 寄生虫が森と川を育む！？ハリガネムシを通して自然をみてみよう



開催日： 2016年9月18日

実施機関： 神戸大学大学院理学研究科
(実施場所) (京都大学フィールド科学教育研究センター・森林ステーション・和歌山研究林)

実施代表者： 佐藤拓哉
(所属・職名) (神戸大学大学院理学研究科・准教授)

受講生： 中学生3年生 3名(男1、女2)

関連URL：

【実施内容】

本プログラムは、ハリガネムシ類を通じた森と川のつながりを例に、生物たちの不思議で多様なつながりを実体験として受講生に学んでもらうことを目的して実施された。

具体的には、導入として、申請代表者が、森と川の繋がり大切さ、および申請代表者が発見したハリガネムシを通じた森と川のつながりについてスライドと配布資料を用いて説明した。その後、受講者とともに研究林に立ち入り、ハリガネムシやその宿主(カマドウマ)のトラップを受講者に回収してもらって観察をした。また、河川で実際に溪流魚(アマゴ)の捕獲を行い、捕獲したアマゴに麻酔をかけて測定・個体識別をしたり、食べているものを吐き出させて食性を確認したりするなど、ハリガネムシを通じた森と川のつながりを実体験として理解してもらった。また、そのような実習と合わせて、実施協力者の長谷川准教授(京都大学フィールド科学教育研究センター)より、実習場所周辺における森林管理の現状について説明をしていただくことで、森と川のつながりを損なわない森や川の利用方法について受講者に考えてもらった。

森林・河川での実習後には、再び講義室に戻り、プログラムを通して学習したことを確認しあった後、修了式を行った。修了式では、申請代表者から、参加者1人1人に修了証を授与した。

本プログラムについては、安全確保や観察できる生物の確認など、入念に事前チェックを行うことで、安全かつ円滑にプログラムを実施することができた。終了後に参加者や保護者からいただいたアンケートにおいては、プログラムの実施目標が十分に達成されたと判断できる内容の意見がみとれた。

以上のことから、本プログラムについては、当初の目的に沿って、適切に実施することができたと判断し、実施報告書を提出いたします。

【実施分担者】

なし

【実施協力者】 6名

【事務担当者】 福田 雄一(ふくだ ゆういち)・(神戸大学 研究推進課研究助成グループ・事務員)